「地域との協働事業（グローカル型）」成果報告資料【五ヶ瀬中等教育学校】

［研究主題］　学校を核とした『共学共創コミュニティ（GIAHS Co-Learning Community ）』の構築

Global（2013～　スーパーグローバルハイスクール事業）

○研究開発の概要：　中山間地域に位置する本校でグローバル・リーダー育成に向けた教育を展開するために，本校の特徴（6カ年教育カリキュラムの編成，探究活動の実践，全寮制教育など）と，国際社会に散在する課題が山積みされた中山間地域の強みを活かして，国内外の関係機関と連携を図りながら課題研究を軸とした研究開発を行う。

○SGH事業の成果：社会実践を伴った課題研究活動の展開，探究的な学びを生み出す6カ年教育カリキュラムの開発，海外フィールドワークの実施　など

学びの普遍性（アカデミック）

Society5.0を地域から分厚く支える人材の育成

野性味あふれる地球市民（Global citizen）の育成

(1) 関連づける力 Associating　(2) 問う力 Questioning　(3) 見る力 Observing　(4) 試みる力 Experimenting　(5) 繋がる力 Networking

風を読む（資質）

葉を拡げる（連携）　GIAHS Co-Learning Community の構築

GIAHS地域を基盤とした教育コンソーシアム

- 宮崎県教育庁
- 高千穂高校
- 5町村自治体
- 五ヶ瀬中等教育学校
- 5町村中学校
- 地域NPO
- 宮崎大学

GIAHS 協議会（2015～）

共学共創チーム

【アカデミック・アドバイザー】
阿部健一（総合地球環境学研究所）
梶谷真司（東京大学UCTP）
【カリキュラム・アドバイザー】
川原一之（アジア砒素ネットワーク）
岩本悠（教育魅力化プラットフォーム）

グローバル・サポーター
国連食糧農業機関（FAO）

幹を育てる（探究）　地域との協働による探究活動の実践

共に学ぶ【拡がり】

○6カ年の総合的な探究の時間
（GIAHS・SDGsをテーマにした地域課題研究）
○GIAHSシンポジウム
（協働連携校との合同シンポジウム）
○GIAHSスタディーツアー
（国内外の留学生向けツアーの企画・運営）

共に創る【深まり】

○Globalな視点×Localな実践
（地域・海外人材との協働による探究活動）
○海外人材との協働的な学び
（留学生受入：アジアの架け橋プロジェクト）
○海外フィールドワーク
（国内外におけるGIAHS地域の魅力発信）

土を耕す（支援）　地域協働学習実施支援員の養成

○みやざき教育魅力化コーディネーター養成コース
（ウェブ会議システムを活用した社会人向け教育プログラムの提言）

学びの真正性（リアリティー）

Local（1986～フォレストピア構想，2015～　世界農業遺産認定）

○フォレストピア構想：　県北5町村による「フォレストピア圏域」において，森林が持つ様々な機能と山村固有の伝統的な生活文化を活かし，人間性回復の森林づくりを目指すもの。五ヶ瀬町は「学びの森」に指定され，本校はその拠点校として位置づけられている。

○世界農業遺産 GIAHS：社会や環境に適応しながら時代を通して継承されてきた独自性のある農林業と，それに密接に関わって育まれた人々の暮らしや文化を含む「山間地農林業複合システム」について，国連食糧農業機関によって認定されたもの。

①風を読む（目指す生徒像）

ＳＧＨ　　野性味あふれるグローバルリーダー（Global Leader）

Ｇ型事業　野性味あふれる地球市民（Global Citizen）

②葉を拡げる（連携） GIAHS Co-Learning Community の構築

GIAHS地域を基盤とした教育コンソーシアム

宮崎県教育庁

英語discussion（県内ALT）

MSECフォーラム

教育の情報化フェスタ MIYAZAKI 2021

社会人向け教育プログラム開発

高校関連

English Day

協働マイプロジェクト活動

五ヶ瀬×飯野合同探究

MIYAZAKISDG s ACTION

自治体

コンソーシアム企画会議

五ヶ瀬町政策提案コンテスト

GIAHS世界会議2021

五ヶ瀬TSUNAGU

五ヶ瀬中等教育学校

５町村中学校

GIAHSシンポジウム

on-line交流会

五ヶ瀬中学校GDP

地域NPO

総合探究の協働（体験活動）

地域の夏祭り企画・運営

たかちほごう食べる通信

総合探究の支援（研究支援）

大学関連

哲学対話　地球研オープンハウス

English Day（留学生派遣）

総合探究の協働（講義）

知的財産セミナー（職員研修）

③幹を育てる（探究）地域との協働による探究活動の実践　総合探究（内容）

郷土探究1（地域体験活動）

実践探究3（マイプロジェクト）

普遍探究5（課題研究活動）

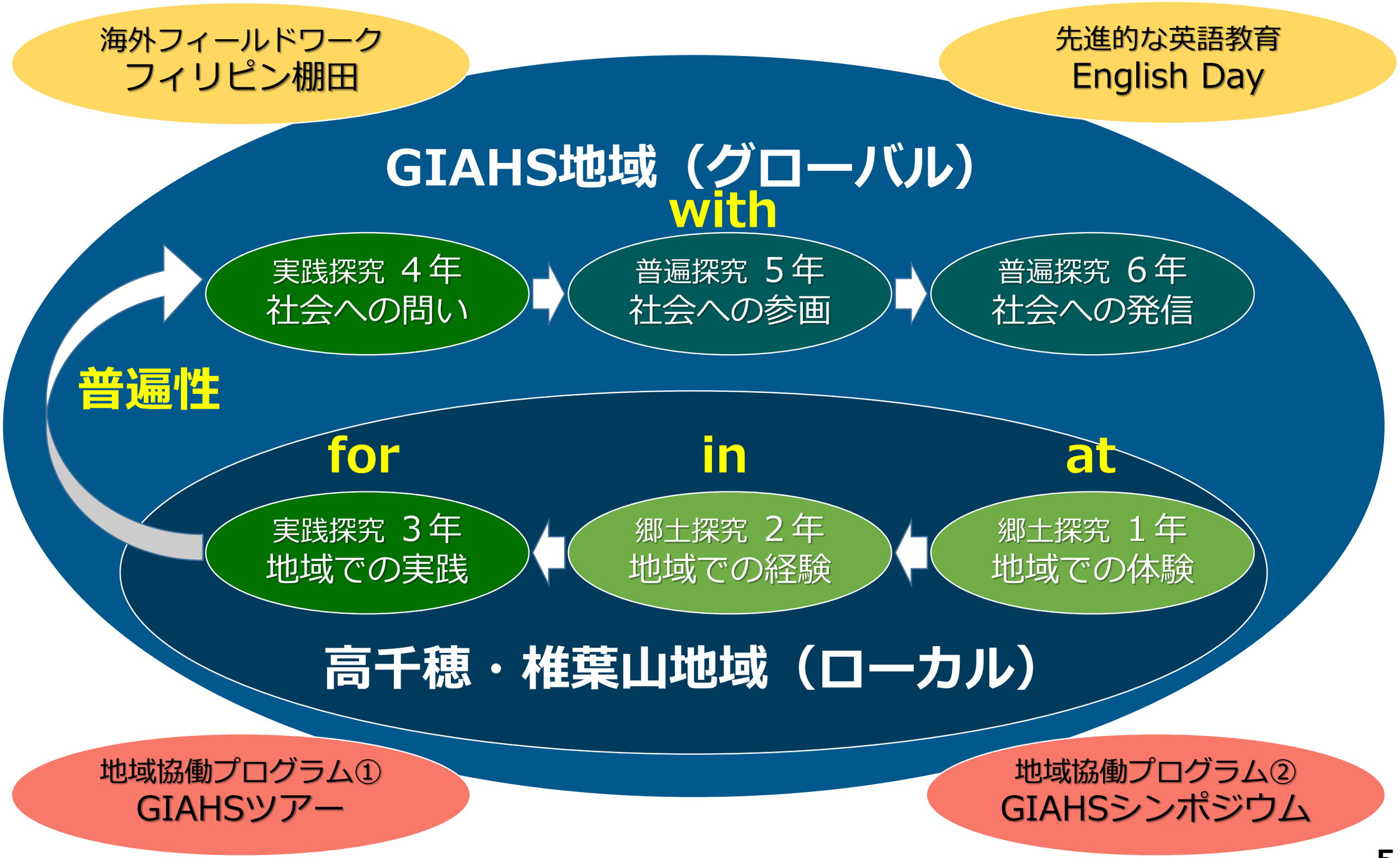
郷土探究2（命の繋がり）

実践探究4（問いの探究）

普遍探究6（成果発信・英語）

8年の実績と６カ年教育の強みを活かした「五ヶ瀬」探究モデル

③幹を育てる（探究）地域との協働による探究活動の実践　総合探究（概要）



④土を耕す（支援）地域協働学習実施支援員の養成

ＳＧＨ　学校が主体となった教育カリキュラム開発・実践

Ｇ型事業　社会との共学共創による新たな学びの価値の創造

宮崎県内の多様な大人による

「共学共創コミュニティ」

（オンライン授業×研修会）

（令和元年・２年）講義＋演習型

（本年度）

少人数ゼミ単位でのPBLの実践

【伴走サポーター】

上水陽一（県教育委員会）

中山　隆（こゆ地域づくり推進機構）

谷田貝　孝（宮崎大学地域資源創世学部）

（本年度実績）

県内外から、教員だけでなく、多種多様な職業の方が２２名参加しています。

オンライン実施の強みを活かし、国外（インド・カナダ）からの参加者も受け入れています。

【成果報告①】 3カ年の取組の成果と課題

【成果】

- ６カ年**カリキュラムの確立**（総合探究）
- コンソーシアムの**拡がり**（協働的な学び）
- 「学びの土壌」の**客観的評価**　※下図参照
- **ICT活用**による６カ年**カリキュラムの深化**（総合探究）
- **生徒の**自走的かつ協働的な探究活動（総合探究）
- **教員による**教科横断的学習の取組（総合探究）
- 共創チーム・メンバーと「リアル×リモート」の**ハイブリッド型カリキュラム開発**（共学共創の実現）

令和元年度高校魅力化評価システムより抜粋

学習活動の機会	本校	他地域
主体性に係る機会	**85.1%**	46.4%
協働性に係る機会	**92.5%**	70.0%
探究性に係る機会	**90.3%**	60.1%
社会性に係る機会	**92.5%**	43.6%

令和2年度高校魅力化評価システムより抜粋

学習活動の機会	本校	他地域
主体性に係る機会	**71.5%**	50.2%
協働性に係る機会	**89.3%**	73.9%
探究性に係る機会	**85.5%**	68.8%
社会性に係る機会	**85.7%**	54.1%

各項目の設問で
「あてはまる」と回答した生徒の割合
※他地域とは事業指定校を指す

【課題】

- **「資質・能力」の形成的評価**
- **１０年先を見越した**継続的・発展的な仕組み創り

【成果報告②】 形成的評価「ICEモデル」（本校独自）

ICEモデルとは？

Diao(2021):

"(…)The ICE approach was originally introduced in 1996 by Robert Wilson, professor of Educational Psychology at Queen's University, Ontario, Canada, **'as a formative assessment tool to help teachers and students plan and improve learning' "**

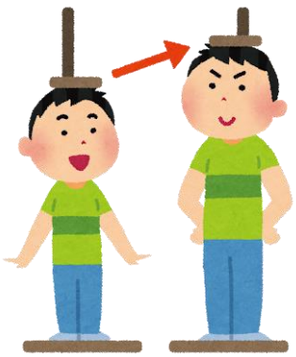
⇒CEモデルとは？「教員と生徒の学びを形成的(formative)に評価するためのアプローチ」(拙訳)

I・・・Idea(アイデア・事実の理解):
例：新米の看護師が覚える採血の手順
→「知識」を知っている状態

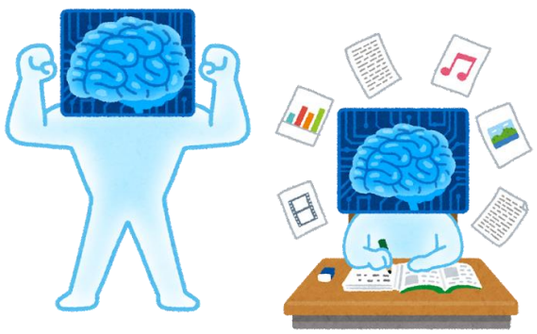
C・・・Connection(学びのつながり):
例：「Aさんは血液検査が苦手だから、採血中はおしゃべりを続けようかな」
→複数の知識を組み合わせて、何かができる状態

E・・・Extension(活用・応用)
例：「人が恐怖を覚えるのはどういうときなのだろう？」
→知っていることの本質を考えることができる状態

学習者は
成長過程のどこにいるか？



前回と比べて
どれくらい成長したか？



内容は覚えやすく
授業内外でも活用できるか？

		教科教育			寮教育			GF探求			課外活動			生徒会活動		
		I	C	E	I	C	E	I	C	E	I	C	E	I	C	E
ICE1	関連付ける力															
ICE2	問う力															
ICE3	見る力															
ICE4	試みる力															
ICE5	つながる力															

5つの領域
×
本校が求める
5つの力

【調査手順】
①Googleformsによるアンケート調査（全学年）
②調査結果分析（通時的分析・自由記述をテキストマイニング）

【成果報告②】 形成的評価「ICEモデル」（本校独自）

後期課程　通時的分析(R3.6月→11月)

4th	教科教育			GF探究		
	I	C	E	I	C	E
問う力	-7.4	-1	8.4	3.1	-4.2	1
見る力	-15.3	3.7	11.5	6.1	-20.2	14
試みる力	-10	6.3	3.6	17	-9.6	-7.5
関連づける力	6.4	-7.2	0.7	-12.6	3.7	8.9
つながる力	1.4	-9.8	8.4	-1.5	-1.7	3.1

5th	教科教育			GF探究		
	I	C	E	I	C	E
問う力	-8.3	1.4	7	-11.2	1.5	9.7
見る力	-5.2	-1.4	6.6	-5.3	-1.6	7
試みる力	-20.3	1.5	18.8	-8.2	-10.7	18.8
関連づける力	-8.2	-1.8	10	-23.3	16.4	6.8
つながる力	-28.8	16.1	12.7	-17.1	-13.6	30.8

6th	教科教育			GF探究		
	I	C	E	I	C	E
問う力	18.2	-21.2	3	12.2	9.1	-21.2
見る力	3	-12.1	9.1	9	3	-12.1
試みる力	15.1	-15.1	0	0	3.1	-3.1
関連づける力	9.1	-27.3	18.1	18.2	-12.1	-6.1
つながる力	3.1	12.1	-15.1	12.2	-9.1	-3

【全体概況】

①概ね各学年のGF探究カリキュラムに応じた結果（４年生→問いの探究、５年生→課題研究活動、６年生→論文作成）となっている。

②GF探究と教科教育における関連性について今後さらなる検証が必要

【今後の活用方法】

「誰でも、いつでも、何にでも活用可能な」データベースにしていく必要性がある。

（例）個人面談での参考資料や、学期・年度末での振り返りの一部等…

【成果報告③】 各種大会参加･表彰

大会名	部門	結果
MY PROJECT AWARD 2019	日本語プレゼン	ベスト・コ・クリエーションアワード （全国代表８作品）
2020年度自治医科大学　小論文コンテスト	小論文部門	入賞
第42回宮崎県高等学校　総合文化祭	弁論部門	第2位（九州・全国大会出場）
令和2年度関係人口創出事業 五ヶ瀬町政策提案コンテスト	日本語プレゼン	金賞
令和２年度宮崎県課題研究発表大会	人文社会部門	最優秀賞
全国知財創造実践甲子園2020	日本語プレゼン	優秀賞
WWL・SGH×探究甲子園	英語プレゼン	出場
日本地理学会 2021年春季学術大会	高校生 ポスターセッション	採択
令和元年度　九州SGHフォーラム	英語プレゼン	優秀賞
宮崎県科学教育コンソーシアム 第１回合同探究活動発表会	日本語ポスター	金賞
第５回高校生国際シンポジウム	地域課題分野	最優秀賞
第５回高校生国際シンポジウム	国際・観光・ ビジネス分野	最優秀賞